



八雲町における

醸造用ぶどう栽培の取組について



日本海と太平洋を持つ八雲町。酪農や漁業を基幹産業として多種多様な特産品がある人口約15,000人の町。新たな産業・特産品の創出を目指し、醸造用ぶどうの栽培事業に挑戦しています。

これまでの取組について

◎平成30年

山ぶどう系のヤマ・ソービニオン品種、欧州系品種のシャルドネ、メルロとザラジェンジェ各5本の苗木を試験的に定植。

◎令和元年

ヤマ・ソービニオン、シャルドネ、メルロ、ザラジェンジェ各10本を新たに定植し試験栽培を継続。

◎令和3年

ヤマ・ソービニオンがその他品種より生育が良好なことから、町内農業者（2戸）の圃場で各150本（総本数300本）の試験栽培を実施。

◎令和4年

町内農業者（2戸）の圃場で各150本（総本数600本）を定植。植樹後、鹿による食害があったことから電気柵の設置を実施。

◎令和5年

町内農業者（2戸）の圃場で各150本（総本数900本）を定植。醸造用ぶどう栽培推進員として「地域おこし協力隊」2名を採用し、本格的な栽培を始動。15kgの収穫量となり、12本のワイン製造（試作品）を行った。

◎令和6年

白ワイン用ぶどう「シャルドネ」の苗木600本を新たに定植し、赤ワイン用の「ヤマソービニオン」と合わせて現在1,500本を定植。



今後の展開について

- ・令和12年度までに13,000本の定植を行う予定。
- ・令和11年度までにワイナリー特区を申請予定。
- ・令和12年度までにワイナリー建設と稼働を目指す。
- ・令和16年度までに収穫量約20t、栽培面積約5ha、ワイン製造本数15,000～20,000本を見込む。



道南地域での栽培 メリットは・・・

- ・近年の温暖な気候により、多種多様なぶどう品種の栽培が可能となった。
- ・冬季間は積雪が適度にあり、凍害の心配が少ない。
- ・収穫時期の降水量が少なく、健全なぶどうの収穫に期待ができる。
- ・過度な高温による生育障害の心配が少なく、高温多湿による病気の心配が本州より少ない。



収穫の様子

取組むべき課題は・・・

- ・農業機械の充実
- ・町内農業者への栽培指導
- ・収穫量の増収
- ・委託醸造の開始/販売開始
- ・酒類販売免許/酒造免許取得
- ・ワイナリー特区申請



事業計画

ワイナリーからブドウ畑を一望でき、八雲町中心市街地付近にあるアクセスの良いワイナリー



これまでの取り組み

H30年度	4品種の試験栽培
R1年度	同品種、本数を増やし栽培
R3年度	ヤマ・ソービニオンに絞り300本定植
R4年度	ヤマ・ソービニオン300本定植
R5年度	ヤマ・ソービニオン300本定植
R6年度	シャルドネ600本定植
R7年度	シャルドネ1,500本定植

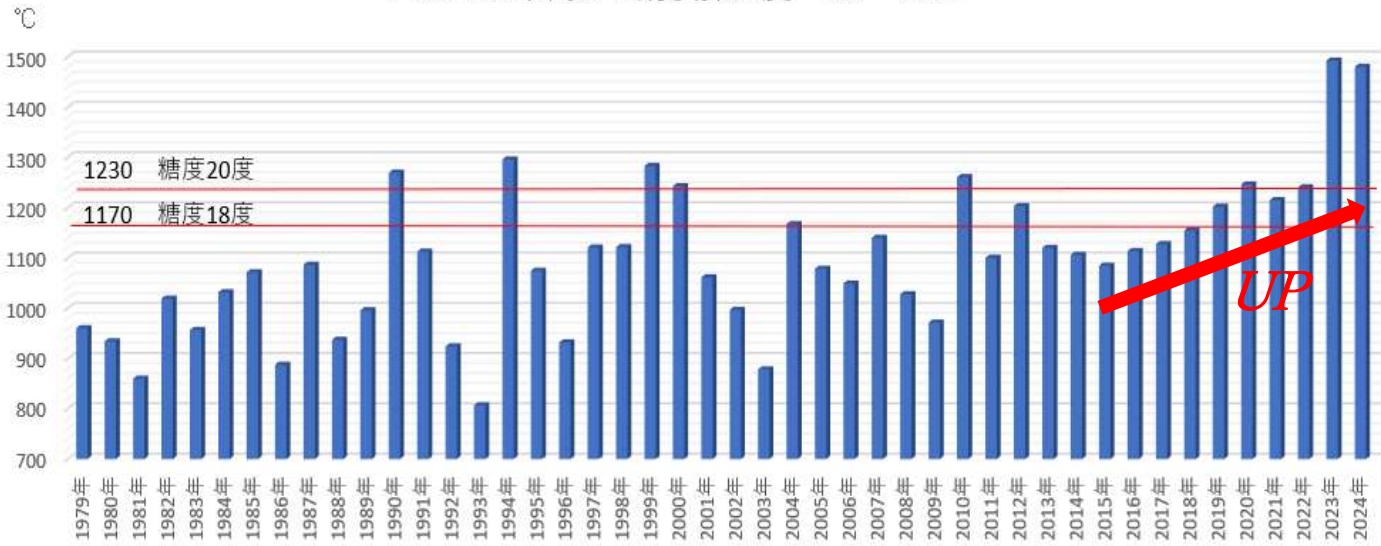
今後の計画

R8年
↓
R12年
ワイナリー稼働予定（自家醸造開始）

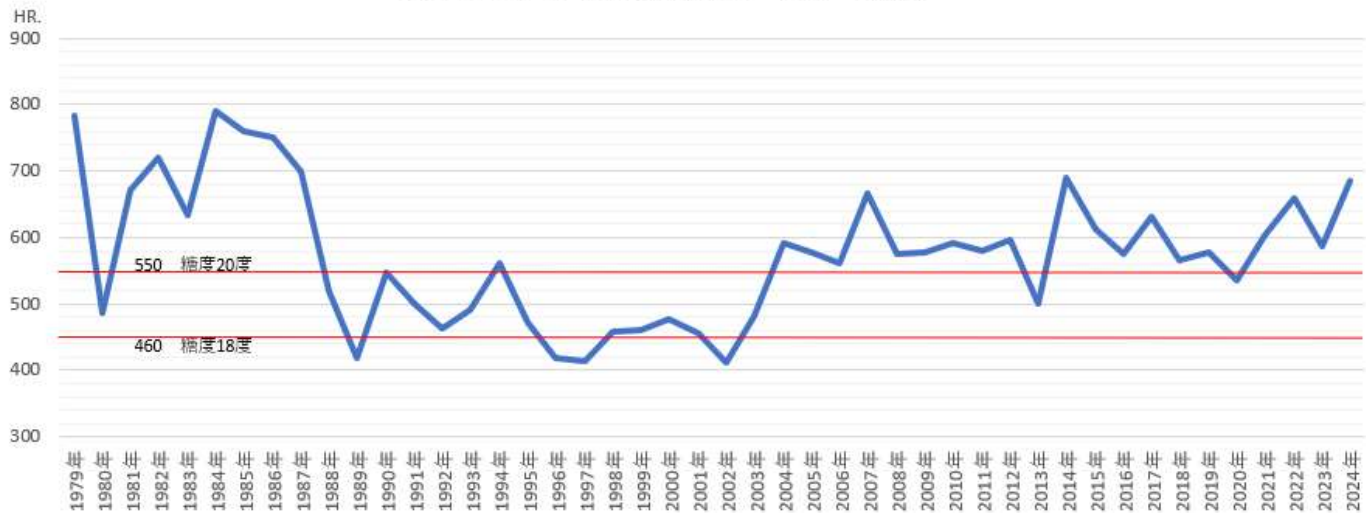
最終目標
 総植付本数:13,000本
 ワイン製造本数:15,600本程/年間

醸造用ブドウ栽培に必要な有効積算温度と日照時間の指標

八雲町の年代別有効積算温度 4月～10月



八雲町の年代別日照時間 7月～10月



ピノ・ノワール、ソーヴィニヨン・ブランが熟成するのに必要な日照時間、積算温度は以下の通り。

	日照時間	有効積算温度
	満開期(7月1日頃)～ 収穫期(10月20日頃)	4月1日～収穫期 (10月下旬)
糖度		
18%には	460時間	1170°C
20%には	550時間	1230°C

資料出所：醸造用ぶどう導入手引き R4 改訂第4版 中央農試

科学的根拠に基づく八雲町の気候

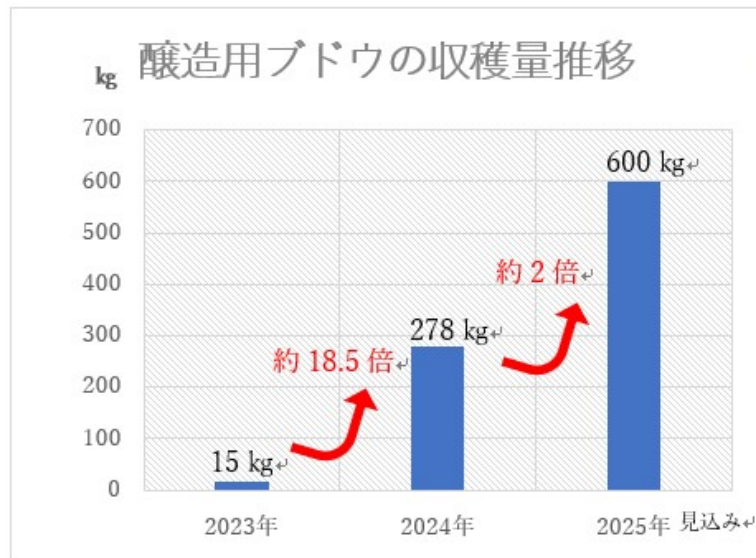
八雲町は、2010 年まで乱高下の激しい気候帯だった。この安定しない気温帯が、八雲町が冷涼な地域と呼ばれる要因の一部であった。

2010 年以降、この気温の乱高下がなくなり、安定的な温暖な気候帯へ突入。日照時間も十分確保でき、果樹栽培へ十分に期待できる地域となった。

2024 年、八雲町ではブドウの糖度が **22.34%/brix** に達した。

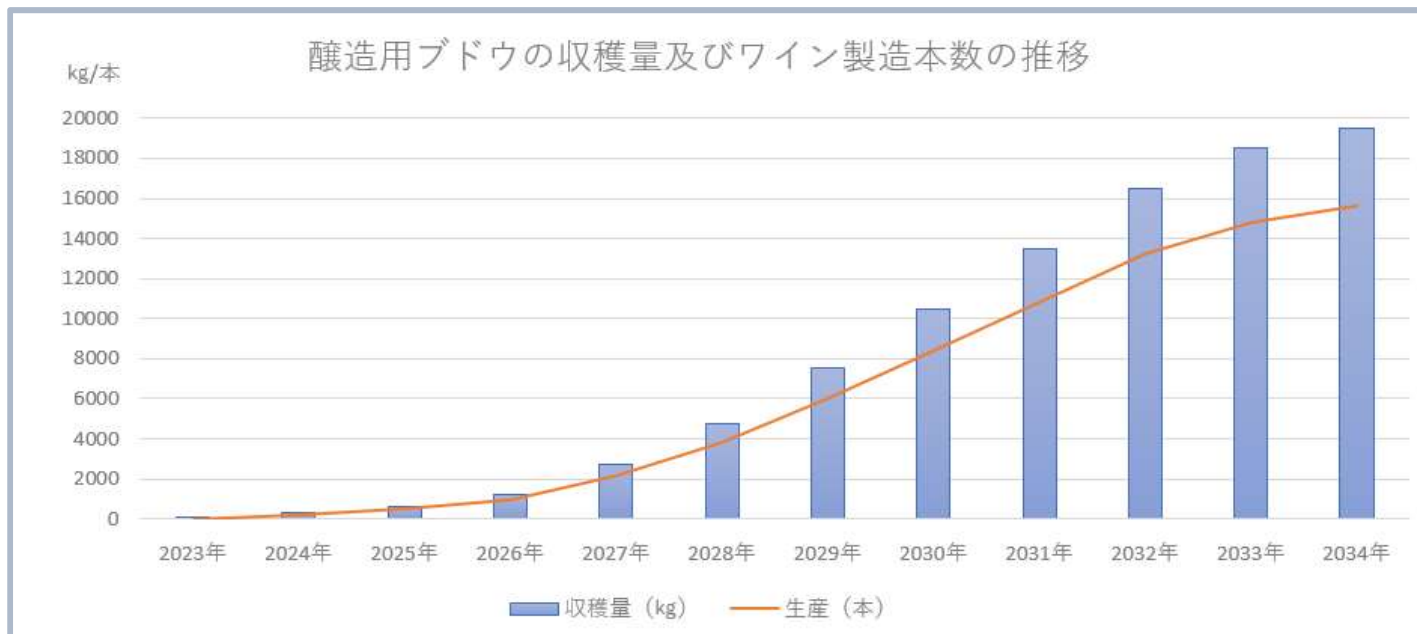
資料出所：気象庁データベースより算出

醸造用ブドウの収穫量及びワイン製造本数の推移と予測



- ブドウの樹が成木になるにつれて、収穫量も増収してきている。
- 令和 8 年度から、欧州系品種のシャルドネ(白)の収穫が始まる。

今後は欧州系品種を主軸に、多種多様なブドウ品種を栽培し、赤ワイン、白ワイン、混醸、スパークリングワイン、ロゼなど、バラエティー性に富む商品のラインナップを目指す。



年	収穫量 (kg)	生産 (本)
2023年	15.1	12
2024年	278	230
2025年	600	480
2026年	1,200	960
2027年	2,700	2,160
2028年	4,750	3,800
2029年	7,500	6,000
2030年	10,500	8,400
2031年	13,500	10,800
2032年	16,500	13,200
2033年	18,500	14,800
2034年	19,500	15,600

全体図

